

VISION35

[はじめに]

一般社団法人野洲青年会議所（以下、野洲青年会議所）はこれまで34年間にわたり「明るい豊かな社会の実現」を掲げ、我々の住まう野洲のために、活動・運動を行ってきました。このまちをよくしたいという情熱をもった諸先輩方の活動の歴史を受け継ぎ、今も変わることなく現役の野洲青年会議所メンバーは日々、青年会議所運動に邁進しています。また過去5年の野洲青年会議所の運動の柱として、2014年に野洲青年会議所行動指針を策定しました。行動指針では我々の意識の有り様を示し、まずは自分たちが道徳心と利他の心を持ち手本となれる行動をし、うつくしいふるさとの創造に取り組んできました。我々の基本的な行動姿勢は普遍的なものであり、その姿をまちに伝播させまちづくりへと取り組んでまいりました。青年会議所が行うまちづくりは、その風土や時代にあった背景を捉え、課題解決へと導いてきました。また近年ではSDGsへの関心の高さもあり、青年会議所運動が多くの注目を浴びる現状があります。その中、この35周年を機にまちが抱える多くの問題から、課題の本質に目を向け、見抜く力を身に着け、恒久的な解決策を見出し、このまちの発展に寄与したいと考えます。

[誇れるまち]

野洲市は豊かな自然や古き良き風土と歴史的な伝統を有し、交通網の発展や駅前開発、流入人口の増加など今後ますます発展していく材料があります。しかしまちの発展とは裏腹に、個人の生活環境では、経済面、育児面、教育面でそれなりの満足を得ているが、行政に任せきりであり、まちに住民一人ひとりがまちの事業やイベントへの参加が減少しているという不安要素があります。このまちがにぎわうにはどのようにすれば良いかという問題提起を市民から発信する声が少なく、まちが発展していくための好材料があるにも関わらず、まちへの関心が薄く、他人事として捉えるなど、まちの全体的な発展に繋がっていない現状があると考えます。これは市民が生活の向上を望みながらも解決策を見出せないことや、まちの発展が個人の環境の変化につながるという価値観がなく、まちが発展すれば自分たちに利益（資産）をもたらすという考えに至らないからではないでしょうか。そこで今後も野洲のまちが持続的な発展をしていくためには、野洲のまちに住む人々が、自分の住む郷土を自分たちのため、また将来を担う子どもたちのために、よくしたいという意識を持ち、市民が理想とする未来像をもつことで、野洲のまちが「誇れるまち」となります。自分たちのまちを我々が誇りに思うことで、自らがまちづくりに参加し、他者にも自慢できるまちを醸成できれば、子ども世代、孫世代に伝わり、今後もまちの発展が継続し続けます。

これからの誇れるまちづくりの要点として「挑戦」「実現」「持続可能」の3つを掲げ取り組んでいく必要があります。

「挑戦する人財」

野洲青年会議所はこれまで地域の課題に真摯に向き合い、率先して問題解決をしてきました。その中で、時代が変わり既存の地域活動団体の縮小化や、市民の地域社会への参加率の低下などの大きな問題も見受けられ、我々青年会議所も例外ではなく、地域活動団体と同じ課題を抱えています。その背景には仕事や家庭があり、日々の生活に追われている現状があります。忙しい日々の生活の中、まちの明るい豊かな社会の実現のために一歩背伸びして、難しい問題や理想に挑戦することが成功体験をうみだします。成功体験をうみだすには、自己の利益になる体験ができる環境の提供をすることが大切です。改革を恐れるのではなく、私たち青年会議所だからこそできる挑戦をすることが、次代を担う世代に挑戦する背中をみせ、周りに影響を与え挑戦する環境を創り出すことで、挑戦する人財を育成します。まちに必要とされる人財の集まりだからこそ、まちに変革をもたらすことができる本当に必要とされる青年会議所運動へととなります。

「ゆめの実現」

野洲青年会議所が2014年に定めた行動指針においては「ゆめの共有」をうたい、まちをよくしたいという同じ理想像を持つ他団体と協働という可能性を探ってきました。2019年となった今、その後の展望として「ゆめの共有」の先、「ゆめの実現」ができる社会を醸成していかなければならなりません。まずはこの野洲のまちにおいて浸透してきた協働をより強固なものとし、ゆめを現実に変えるため、地域の人々や行政と手を取り合う必要があると考えます。そのプロセスとしてひととしての成長が不可欠であり、我々野洲青年会議所が各諸団体と真摯に向き合い、行き着く先をしっかりと見据え、同じ目的を共有し互いを尊重し、賛同者を増やしながら、課題解決に導く必要があります。地域を牽引する人財として誇りをもって行動し、野洲青年会議所が積み重ねてきた経験や多様性に富むメンバーの視点や考えを互いに共鳴させることで、地域課題を解決する野洲青年会議所でしかできない戦略的行動計画を実現する仕組み作りをします。

「持続可能なまちづくり」

近年野洲市の課題は、新しく野洲に住むひとが野洲のまちに愛着を持つ機会や環境が少なく、古くから住まうひとが古きよき文化の継承をできずに終息をむかえてしまう現状があり、まちの魅力に気づくことができず、本来このまちで消費されるべき経済効果や、にぎわいがもたらすまちの活力を感じる事ができていないという問題があります。その背景には郷土愛をうみだす機会や環境が少ないこと、まちの文化を継承し、自分の価値観でイノベーションをおこす仕組みや仕掛け作りをしていないのが問題であると考えられます。まちが発展していくために、今ある資源を認識し、また新しいものごとに果敢に挑戦し、にぎわいと活力のあるまちを創造していくことが誰の利益になるのかを考え、大人世代から子供へ、また孫へとこのまちの魅力を継承するために、地域一丸となってこのまちの課題に向

き合えるまちづくりを推進し、野洲のまちを持続可能なまちづくりへと導いていきます。

さらに課題解決において、野洲青年会議所がリーダーとなって、課題の本質を提言し、行政・各諸団体を巻き込み、互いに共鳴しあう同士で、どのような施策をうみだせばいいのか、考えましょう。その共感が野洲の地域へ変革をもたらし、地域へインパクトを与え、変革のサイクルを回しつづけることで地域の課題解決を導く糸口となり、さらにはその考えが野洲市全体に伝播することで、我々のまちを誇れるまちへとつながります。

[最後に]

我々は20歳から40歳のメンバーで構成された青年経済人であり、地域で活躍する魅力ある組織であります。我々は日々の青年会議所運動を行う中、まずは家族に感謝をし、得た経験を社業へ繋げるべきであります。それは簡単なものではありません。決して一朝一夕で得られるものではなく、志を同じうする同士に支えられ、自ら一歩進んで挑戦をすることで、得た経験、成功体験こそが青年会議所の価値であり、そんな仲間が周りにいて、何事にも挑戦できる環境が青年会議所にはあります。また、自己研鑽の場としても、日本各地や世界に広がる団体として、様々な考えや挑戦を出来る環境にあるメリットもあります。個人の成長が社業の発展につながり、社業の発展がまちの発展を促す好循環を生みだしていきましょう。そのためにまずは自身を鍛錬すること、そしてその成長した姿を身近な人々へ伝播することで、青年会議所への賛同者を増やし、この魅力あふれる我々が、野洲青年会議所行動指針に則った姿勢で、地域のために率先して、まちの発展に寄与する活動を続け、戦略的にまちづくりを計画し続けることで、周囲の人々と手を取り合い、まちと共に発展していく原動力となります。

この姿勢と目的を達成するプロセスをもって行動し続けることで、ひとを、まちを、よりよくしていこうではないか。